

夢、私たちに。

わたしのひとこと



人として生きる

三日市場 篠崎 茂樹

一昨年早期退職し、父母の世話をしながら第2の人生を考えていましたが、昨年より民生児童委員を引き受けることになりました。

当初はどう活動していいのかわからず、いろんな研修会に参加し、わかった事は「民(皆)が生きること」=年齢・性別・身体・能力に関係なく人として当たり前生きる、お手伝いをする事だと気が付きました。

月1回の定例会での情報交換は、大変勉強になります。自分は独居老人宅へ毎月訪問して見守っていますが、他の先輩方は声かけ活動や通学路パトロール、夏休みのラジオ体操参加等、地域でいろいろ活動しており、とても参考になり頭の下がる思いです。

民生活動も、社会福祉政策や個人情報保護に左右されますが、誰でもが安心して暮らし、住み続けられる地域を目指し、活動をしていこうと思う今日です。



息の長い観光地へ

蕨平 柏原 寛史

私が白馬の地に戻ってから早や40年、「アルプスの街・白馬」で岳とスキーをテーマに全国的に売り出し始めた時期でしたので、早速観光に携わる仕事に就いたものです。施設等が最新化していく中で、「おらが施設」の言論のギャップの中でも、知名度が上がるごとに爽快感を覚えながらの毎日であったことを覚えています。

その後オリンピックも経験し、通年観光地に変貌してきた半世紀で、栄枯盛衰を味わいましたが、多くの人の努力により国際的観光地として注目されてきました。今後、息の長い観光地として、山岳リゾートの国際モデルとして位置づけるぐらいの目標を持つことがあって良いと思います。

今推進している、白馬高校の「国際観光学科」がぜひ実現し、観光を学ぶ生徒の社会参加や村民、各ボランティアの人たち等、多くの人たちとの参加型の観光地づくりが進められるよう期待したいと思っています。



心ある運転を

塩島 田中 義勝

私は40数年来、東京と白馬を往来しておりますが、その都度感じていることは、右左折時には30メートル手前で合図を出す事が道交法で定められているのに、直前でブレーキを踏み、その時点で合図を出して曲ったり、右左折車線がある所では、3秒前に合図を出さねばならないのに出さずに当然の様に割り込み、曲がる時にやっと合図を出す等、到底考えられない運転が日常化している。時々友人が訪ねてきますが、大半の人が長野県内に入ると運転するのが疲れると言う。過日、産経新聞に「ほしい優しい運転マナー」として「長野県は観光地なのに運転マナーが悪い。国道、県道でも散々怖い目にあった。」と掲載されていた。今、白馬村では代々の誘客作戦を展開しており、汚名をそそぐ為にも交通法規を守り、心ある運転を心掛け、大いにビックキャンペーンを盛り上げようではありませんか。

編集後記

今年も「第6回大学女子ソフトボール大会」が、白馬で開催されました。

インカレの練習の為に参加するチーム、その胸を借りて来期の強化の為に参加するチームの両方があるので、全国大会レベルとなり、ますます要望が広がっていくと思われまます。

審判員として参加してはいますが、一瞬たりとも留まる事を知らないボール、そして正しいジャッジを待つ選手に対して正確な判断を瞬時にしなくてはならない事は、何事にも代え難い大切な事です。

ソフトボール競技が、2020年の東京五輪で正式種目として復活するか、結論はまだ出ていませんが「必ず復活する！」と私は信じています。

(北澤 禎二郎)

議会報調査編集特別委員会

議長	横田 孝穂
委員長	太田 伸子
副委員長	加藤 亮輔
委員	松本喜美人
	伊藤まゆみ
	篠崎久美子
	田中 榮一
	北澤禎二郎